

現在、スーパー、八百屋さんに行けば、様々な野菜、果物があふれており、国内外で生産された野菜、果物を私たちは1年中食べることができます。現在、農産物の流通、物流は大きな転換期を迎えており、この光景がこれからも続くためには様々な課題があります。座談会では、農産物の流通、物流が抱える課題、そしてその主要な流通ルートになってきた卸売市場流通の課題、今後の方向性について議論をしていただきました。そこでは、今見直さないと卸売市場流通はだめになっていくという切実な意見、そして国内生産の重要性についての議論がされました。さらに特集論文においても、様々な視点から農産物の流通、物流について論じていただきましたが、特にフードシェアリング、食品ロス、フード・マイレージといった、今までとは違った論点が多く出されました。従来の流通では、見過ごされてきた規格外の農産物、さらに大量に廃棄されている農産物、環境面からみて農産物がどのように集められているのか、このような視点は持続可能な農産物の流通、物流を考えるとときに重要な視点と考えられます。

2018年度から本学が取り組んできた文部科学省私立大学研究ブランディング事業「高度なロジスティクス実現に向けての研究拠点形成と人材育成」についての最終結果を掲載いたしました。なお、事業として展開してきたシンポジウム、研究会等の活動は、今後も継続していくこととなっており、研究会の概要についても掲載いたしました。

『物流問題研究』においては、新しいテーマに取り組み、今後も積極的に社会に発信していきたいと考えております。特集論文、一般論文について、奮って投稿していただきますようよろしくお願いいたします。

『物流問題研究』の内容はホームページ

(<https://www.rku.ac.jp/about/data/organizations/laboratory/>)にも掲載されています。

2022年3月 洪 京和

本誌に関する問い合わせ先  
logistics@rku.ac.jp

本号は、文部科学省私立大学研究ブランディング事業「高度なロジスティクス実現に向けての研究拠点形成と人材育成」の一環として発行しています。